

小児科初期臨床研修プログラム（必修科）

研修責任者 白井 憲司

研修期間 必修期間（8 週）、2 年次選択期間（4 週～）

I. プログラムの目的と特徴

当プログラムは、総合病院において小児の入院患者や外来診療（特に救急外来）に関わるプライマリケア医としての基本的な能力を養成することを目的としている。研修医に求められるのは、基盤としての総合力であり、小児医療は総合力を最も必要とする分野である。成人医療とは違う制約のなかで検査に頼りすぎず、基本的な問診や診察技術の大切さを学ぶ。

当科では、一般小児・保健、小児救急、周産期、小児神経の 4 つの柱において診療を行っておりそれぞれに於いて症例数は豊富である。看護部やリハビリを初めとするコメディカルスタッフはレベルが高く学ぶことも多い。カンファランスや勉強会などを通じて質の向上に努めている。

II. 研修到達目標

一般研修目標（GIO ;General Instruction Objective）

- 小児の common disease について幅広く経験し、指導医の元で標準的な医療を行えるようにする。
- 小児救急医療に積極的に参加し地域医療との連携の重要性を理解しその向上に務める。
- 乳幼児健診、予防接種などにも関わり、小児保健医療の理解を深める。
- 周産期二次病院における未熟児新生児医療に関わり周産期医療の理解を深める。
- 重症心身障害児（者）医療にも参加し理解を深める。
- 外来研修にて、小児の一般症例の理解を深める。

行動目標（SBOs ;Structural Behavior Objectives）

1. 一般小児医療、保健医療

- (ア) 外来及び入院診療を通じて小児で比較的良好に見る疾患を症状や経過などから適切に診断し初期対応できるようになる。
- (イ) 基本的診断技術（一般検査、放射線学的診断、一般生理検査など）を身につけより精度の高い診断に到達できるようにする。
- (ウ) 基本的治療手技（輸液、各種薬物療法、鎮静管理、呼吸管理、循環管理、栄養管理など）により頻度の高い一般的な疾患の治療を進める事ができる。
- (エ) 乳幼児健診、予防接種などにも関わり意義と問題点などについて正しく説明できるようになる。

2. 小児救急医療

- (ア) 小児救急の現場で多い発熱、咳、喘鳴、腹痛、嘔吐などのありふれた症候について、その病態や意義を正しく説明でき、重篤な疾患（髄膜炎、敗血症、虫垂炎、腸重積、尿路感染症など）を見逃さず、適切に対応できるようにする。
- (イ) 小児救急現場で時に遭遇する痙攣重積、意識障害、急性呼吸不全、急性循環不全などの急性の危急状態を正しく判断し適切に対応できる。
- (ウ) 内科的疾患だけでなく外傷などの外科的疾患に対してもチーム医療の一員として積極

的に関与できるようになる。

3. 周産期医療

(ア) 周産期における様々な疾患、病的状態、生理的状态などについて広く学び正しく説明できる。

(イ) ハイリスク分娩に指導医と共に立ち会い病的状態について正しく説明できる。

4. 重症心身障害児医療

(ア) 重症心身障害児医療などを通じて様々な程度の神経学的障害を持った児について正しく評価でき問題解決に関わることができるようになる。

Ⅲ. 方略

No.	SBO	方法	時期	人数	場所	人的資源	予算
1	1-4	実技研修 カンファレンス	研修中	1-3	病棟（一般. NICU. PICU） 外来	指導医 看護師	0
2	1-4	自己学習 勉強会	研修中	1	医局 図書室	図書室司書 電算管理者 指導医	コピー 代
3	2	救急外来研修	研修中	1-3	救命救急センター・P I C U	指導医	0
4	4	実地研修	研修中	1	おおぞら療育センター	指導医 看護師	0

Ⅳ. 評価

SBO	対象領域	目的	方法	測定者	時期
1-4	知識	形成的評価	他者評価	指導医	研修中随時
1-4	技能	形成的評価	直接観察 他者評価 カルテ監査	指導医	研修中随時
1-4	態度・習慣	形成的評価	他者評価	指導医	研修終了時

Ⅴ. 週間予定

- 当直医からの申し送り；毎日 8：30～
- 当直医への申し送り；毎日 16：30～
- 入退院報告；月曜日 15：00～
- 産婦人科との周産期カンファレンス；木曜日 16：00～
- 病棟回診 月～金曜日 11:00 頃～
- 抄読会・勉強会；月曜日 16：00～

Ⅵ. 複数月ローテートした際にできること

- ・ 単独での診療を行う事が出来る。
- ・ 基本手技を単独で施行出来る。